

「第2回 若年層の就労に関する意識調査」の結果概要

就労観や将来の生活設計に関する考え方を幅広く質問。

2006年調査との比較により、若年層の意識の変化が明らかに。

株式会社明治安田生活福祉研究所(社長 鶴 直明)は、「第2回 若年層の就労に関する意識調査」を実施いたしました。以下、その概要をご報告申し上げます。

【主な調査結果】

	〈ページ〉
◇ 2年間で、男性の非正規就労・無職の4人に1人が正規就労に	5
◇ 06年、08年とも正規就労であった人のうち、男性4割、女性5割は転職経験者	6
◇ 正規就労化には、「健康」や「体力」、「仕事の能力」に“自信を持つこと”も重要	8
◇ 正規就労化した層では「結婚」への期待感が上昇	12
◇ 30歳を越えると、フリーターから正社員になるのは難しい	13
◇ 06年、08年とも正規就労であった人でも、2割弱が今後フリーターになるかも	18

※ 本資料は、日本銀行金融記者クラブ、文部科学記者会、内閣府記者クラブ経済研究会、厚生労働記者会に配布しております。

ご照会先

(株)明治安田生活福祉研究所
生活設計研究部
奥野 哲・柴田 重信・森 義博

電話：03(3283)9297 FAX：03(3201)7837
Eメール：rbj@myilw.co.jp

【調査の目的】

- ① 当研究所では、2006年3月に「第1回 若年層の就労に関する意識調査」を実施いたしました。今般、その後の就労環境の変化を踏まえ、2年後にあたる2008年3月に第2回目の調査を実施いたしました。
- ② 2006年調査でご回答いただいた方から再度回答を得、同一サンプルの2回の回答結果を比較し、若年層の就労等に関する意識の変化を浮き彫りにいたしました。
- ③ 本調査では、仕事に対する考え方を中心に、将来の生活設計、自身の性格・タイプなど多岐にわたって、2006年調査と同一の質問を行っています。
- ④ また、自認フリーターに対して、フリーター問題に関する意識も尋ねています。

【調査の概要】

(1) 調査期間

2008年3月11～17日

(2) 調査媒体

「gooリサーチ」(NTTレゾナント株式会社提供)によるWEBアンケート調査

(3) 調査方法

2006年調査の回答者に対して依頼メールを送信し、WEB上で実施

(4) サンプルについて

属性グループ(例えば「女性、20～24歳、派遣・契約社員」など)ごとに一定の回収目標を設定し、予定した回収数に達した段階で回収を打ち切りました。そのため、サンプルの構成比は実社会の構成比とは異なっています。

(5) 本リリースについて

本リリースでは、「就労意識等に関する質問一般」と「自認フリーター自身に対する質問」の2つに分けて分析を行いました。

ア. 「就労意識等に関する質問一般」について

① 分析対象者

本報告書の項目番号	1、2、3、4、5、10
分析対象者	2006年調査、2008年調査ともに回答を得た、全国の19～29歳(2006年調査時の年齢)の男女 ----- 正規就労者、派遣・契約社員、パート・アルバイト、無職・求職中、学生
サンプル数	1,131人

(注) 無職・求職中には家事手伝い、専業主婦を含まない。また学生には浪人中を含む

② 分析対象者の属性

【性別】 (上段は実数<人>、下段は占率<%>)

男 性	女 性	計
515	616	1,131
45.5	54.5	100.0

【年齢層】 (上段は実数<人>、下段は占率<%>)

	17～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	計
男 性	53	167	295	515
	10.3	32.4	57.3	100.0
女 性	48	199	369	616
	7.8	32.3	59.9	100.0
計	101	366	664	1,131
	8.9	32.4	58.7	100.0

(注) 上記の年齢は、2006年調査時点のもので表示。以下、本文も同様

【就労形態】 (上段は実数<人>、下段は占率<%>)

	正規就労者	派遣社員 契約社員	パート アルバイト	無 職 求職中	学 生	計
男 性	176	29	81	74	155	515
	34.2	5.6	15.7	14.4	30.1	100.0
女 性	188	92	127	108	101	616
	30.5	14.9	20.6	17.5	16.4	100.0
計	364	121	208	182	256	1,131
	32.2	10.7	18.4	16.1	22.6	100.0

イ. 「自認フリーター自身に対する質問」について

① 分析対象者

本報告書の 項目番号	6、7、8、9
分析対象者	2006年調査、2008年調査ともに回答を得た、全国の17～39歳（2006年調査時の年齢）の男女 派遣・契約社員、パート・アルバイト、無職・求職中の人のうち、「 <u>自分はフリーターだと思う</u> 」と回答した単身者
サンプル数	374人

(注) 無職・求職中には家事手伝い、専業主婦を含まない。

② 分析対象者の属性

【性別】

(上段は実数<人>、下段は占率<%>)

男 性	女 性	計
204	170	374
54.5	45.5	100.0

【年齢層】

(上段は実数<人>、下段は占率<%>)

	17～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	計
男 性	3	30	64	58	49	204
	1.5	14.7	31.4	28.4	24.0	100.0
女 性	4	45	49	44	28	170
	2.4	26.5	28.8	25.9	16.5	100.0
計	7	75	113	102	77	374
	1.9	20.1	30.2	27.3	20.6	100.0

【就労形態】

(上段は実数<人>、下段は占率<%>)

	派遣社員 契約社員	パート アルバイト	無職 求職中	計
男 性	33	127	44	204
	16.2	62.3	21.6	100.0
女 性	27	88	55	170
	15.9	51.8	32.4	100.0
計	60	215	99	374
	16.0	57.5	26.5	100.0

<参考> 就労形態別のフリーター割合

(%)

	派遣社員 契約社員	パート アルバイト	無職 求職中
「自分はフリーターだと思ふ」と回答した割合	16.0	55.5	26.2

目 次

1. 若年層の就労状況は2年間で一定の改善	p. 5
2. 正規就労者の転職	p. 6
3. 就労形態と「自信度」	p. 8
4. 「性格・タイプ」と就労形態の変化	p. 10
5. 結婚、子どもの誕生・成長への期待	p. 12
6. 自認フリーターの就労形態の変化	p. 13
7. フリーターのよいところ	p. 14
8. フリーターのよくないところ	p. 16
9. 今後どのくらいフリーターを続けるか	p. 17
10. 今後フリーターになる可能性	p. 18
【資料編】「自信度」「性格タイプ」の詳細回答結果	p. 19

【リリース本文および図表の表記について】

本リリースでは、2006年調査と2008年調査の回答結果を、主に回答者の就労形態の変化を軸に分析した。

本文中および図表で、就労形態の変化に関する表現の煩雑さを避けるため、例えば06年に正規就労者で08年も正規就労者の層を「正規→正規」と表記している。「非正規→正規」「非正規→非正規」等も同様である。

1. 若年層の就労状況は2年間で一定の改善

- 正規就労の男性の96.0%、女性の84.7%は2年後も正規就労
- 2年間で、男性の非正規就労・無職の4人に1人が正規就労に。ただ無職・求職中の人の半数は2年後も無職・求職中

06年当時正規就労、非正規就労、無職・求職中だった人が08年の就労形態はどう変化したかを見た。分析対象とした年齢層は06年時点で29歳以下の男女。

(1) 06年の正規就労の男性96.0%、女性は84.7%が08年も正規就労

06年時点で正規就労であった人は、男性の96.0%、女性の84.7%が08年も正規就労であった。女性の15%程度が非正規就労、無職に変化しているが、そのなかには出産を契機に離職、パート・アルバイト等に転職した人などが含まれるようだ。

(2) 非正規、無職の層の就労状況は一定の改善

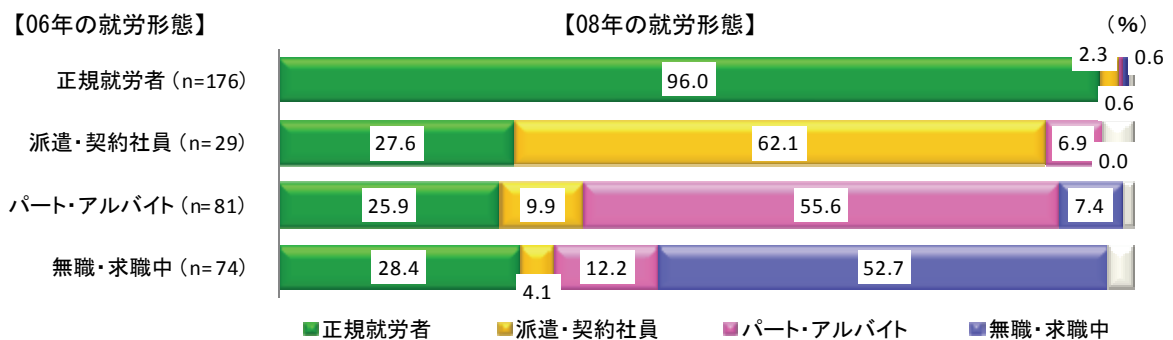
06年時点の非正規就労のうち派遣・契約社員を見ると、正規就労に転じた割合は男性は3割弱、女性は4割弱で女性の正規就労化の割合のほうが10ポイントほど高かった。

パート・アルバイトから正規就労に転じた割合は、男性の25.9%に対し、女性は15.3%と低割合。ただし、男性でも過半数の55.6%がパート・アルバイトにとどまっている。

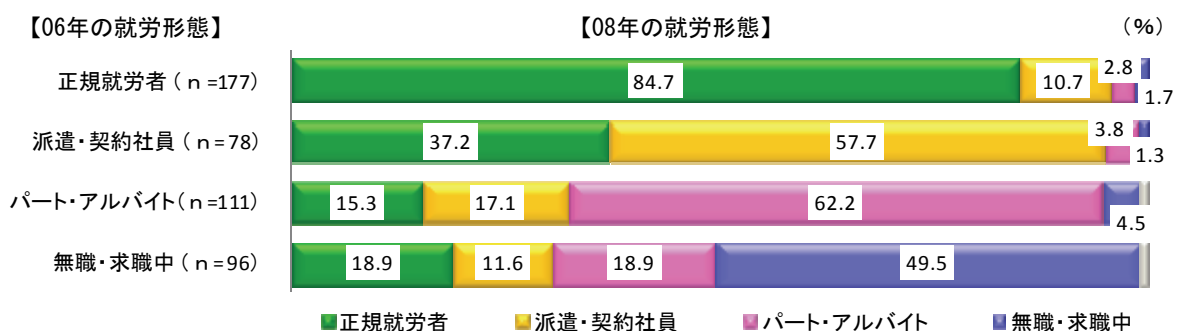
06年に無職・求職中であった人は、男性の28.4%が正規就労化したが、女性は18.9%にとどまった。そして男女ともにほぼ半数が無職・求職中のままであった。

正規就労化率が派遣・契約社員、無職・求職中、パート・アルバイトの順なのは、より安定的、より本格的な仕事を求める意識の違いがあるのかもしれない。

図表 1-1 29歳以下男性の就労形態の変化（同じ人の06年と08年の比較）



図表 1-2 29歳以下女性の就労形態の変化（同じ人の06年と08年の比較）



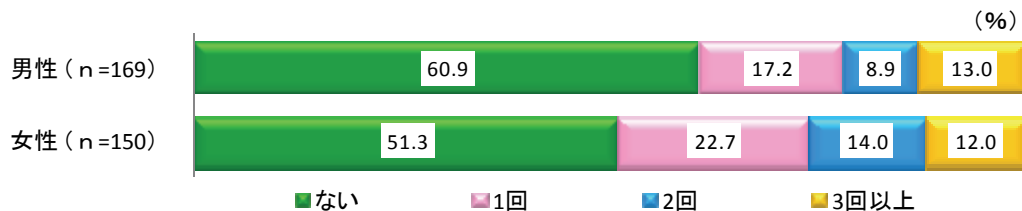
2. 正規就労者の転職

- 06年、08年とも正規就労であった人のうち、男性4割、女性5割は転職経験者
- 今後、具体的に転職を考えている人は男女とも2割
- 転職希望の理由は「収入や労働条件」が最多。新たに正規就労化した男性は「好きな仕事がしたい」が理由のトップ

(1) 06年、08年とも正規就労であった人のうち、男性4割、女性5割は転職経験者

06年と08年のいずれも正規就労であった人に転職経験の有無を尋ねた。その結果、男性の39.1%、女性の48.7%が転職を経験していた。また、転職回数が3回以上という人は男女とも1割強存在している。若い就労者において、転職は決して珍しいものではない状況がうかがわれる。

図表2-1 06年、08年とも正規就労であった人の転職経験の有無（08年の回答結果）



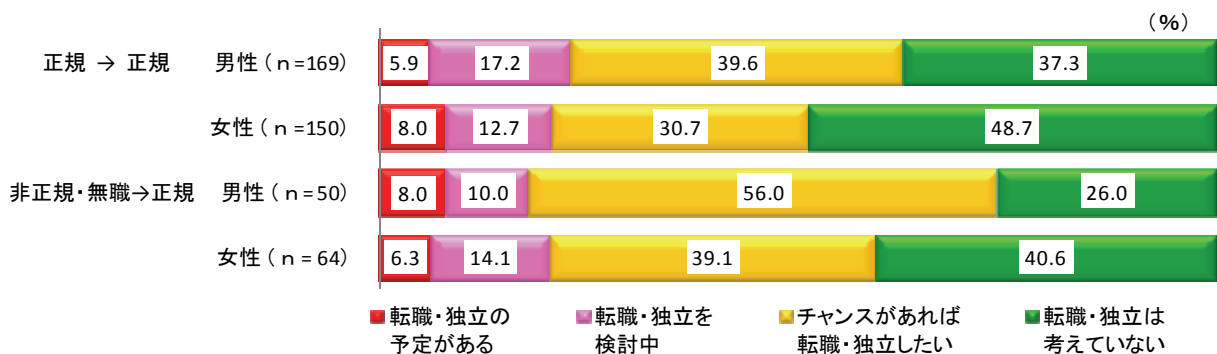
(2) 今後、具体的に転職を考えている人は男女とも2割程度

今後の転職意向を持つ若者も多く、08年の回答結果は「正規→正規」「非正規・無職→正規」とも約2割が「転職・独立の予定がある」「転職・独立を検討中」と具体的に転職を考えている。

そして、「非正規・無職→正規」のほうが現在の仕事にはまだ満足できなくて、さらなる転職を求める人の割合が高い。

「転職・独立を考えていない」は、女性のほうが男性より高割合。女性のほうが男性よりも現状への満足度が高いことや、正社員への転職がしにくいという意識があるのかもしれない。

図表2-2 今後の転職意向について



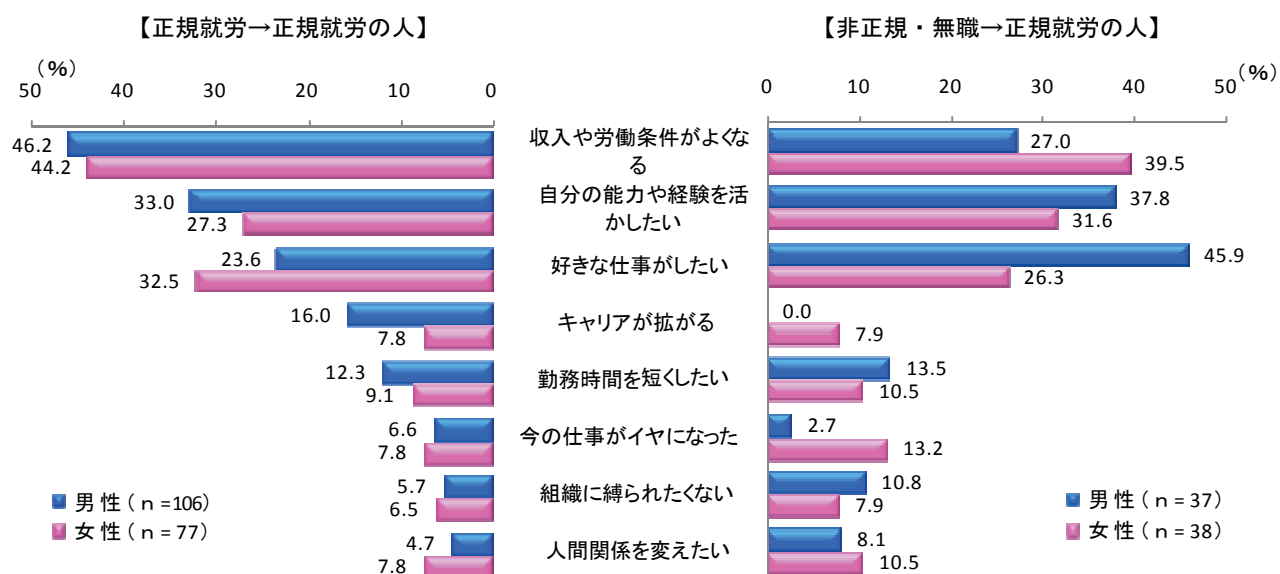
(3) 転職希望の理由は「収入や労働条件がよくなる」が最多

転職や独立を考えている人にその理由を尋ねた。「正規→正規」の男女と、「非正規・無職→正規」の女性は「収入や労働条件がよくなる」が最多で4割前後。

一方、「非正規・無職→正規」の男性は様相が異なり「好きな仕事をしたがたい」がトップで45.9%。この2年間で正規就労になったものの、仕事の内容が自分の希望に合わないと感じている男性も少なくないようだ。

また、「好きな仕事をしたがたい」は、「正規→正規」の女性の3人に1人が挙げている。安定した働き方に就いているものの、自分が本当にしたい仕事は他にあると考えている人も少なくないようだ。

図表 2-3 転職・独立を考えている理由（対象は「転職・独立は考えていない」と回答した人以外。回答は2つ以内、08年の回答結果）



3. 就労形態と“自信度”

- 正規就労化には、「健康」や「体力」、「仕事の能力」に“自信を持つこと”も重要
- なかには正規で働くようになって、自分の能力に自信をなくしてしまう人も

(1) 「健康・体力」に対する自信

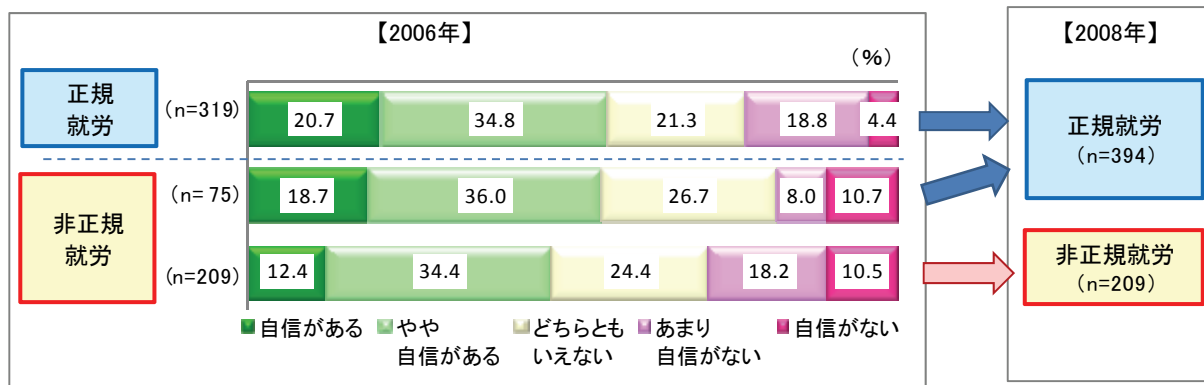
(ア) 安定した就労形態になった人のほうが、健康と体力に自信を持っていた人が多い

「健康・体力に自信があるか」に対する 06 年の回答結果を、その時点での就労形態別にまとめた（図表 3-1）。非正規就労については、2 年後に正規就労になった層と非正規就労にとどまった層に分けて示した（無職・求職中の人の結果は「資料編」参照）。

06 年調査時に健康と体力に“自信あり”（「自信がある」と「やや自信がある」）と回答した割合は、「非正規→正規」と「非正規→非正規」とで、8 ポイントほどの差が生じた。

一方、「非正規→正規」と、「正規→正規」層の間には、目立った差はなかった。

図表 3-1 「健康・体力」に対する自信 —— 06 年当時の回答結果（就労形態別）と、2 年後の就労形態

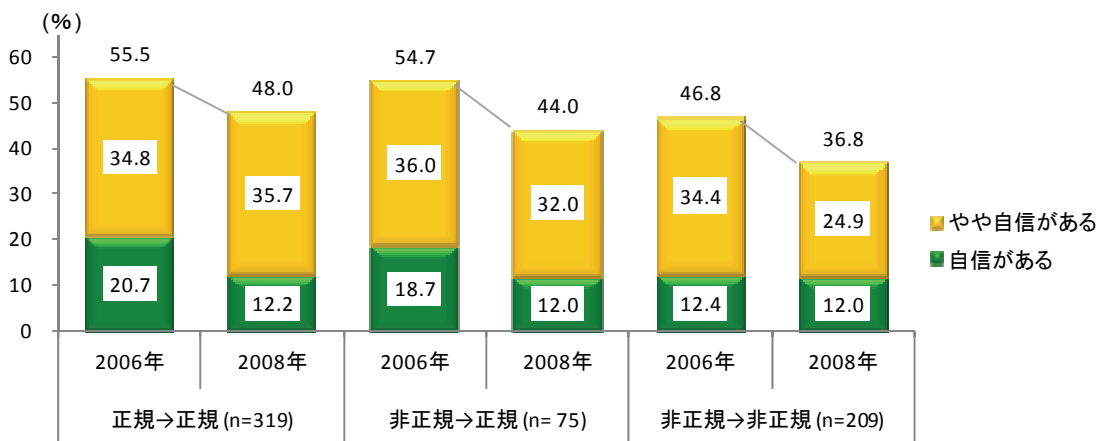


(イ) 2 年間で健康・体力の自信が低下

健康や体力に“自信あり”と回答した割合は、どのグループもこの 2 年間で低下している。特に「非正規→正規」「非正規→非正規」の人は 10 ポイントの低下を示している。

2 年間に健康や体力に関する自信度が高まった人よりも低下した人のほうが多かった原因は、若年層だけに 2 歳の年齢アップだけとは考えにくく、労働時間や仕事の負担の増加、ストレスの蓄積などの影響もあるのではないだろうか。

図表 3-2 「健康・体力」に対する自信 —— “自信がある” 人の割合の 2 年間の変化（就労形態別）



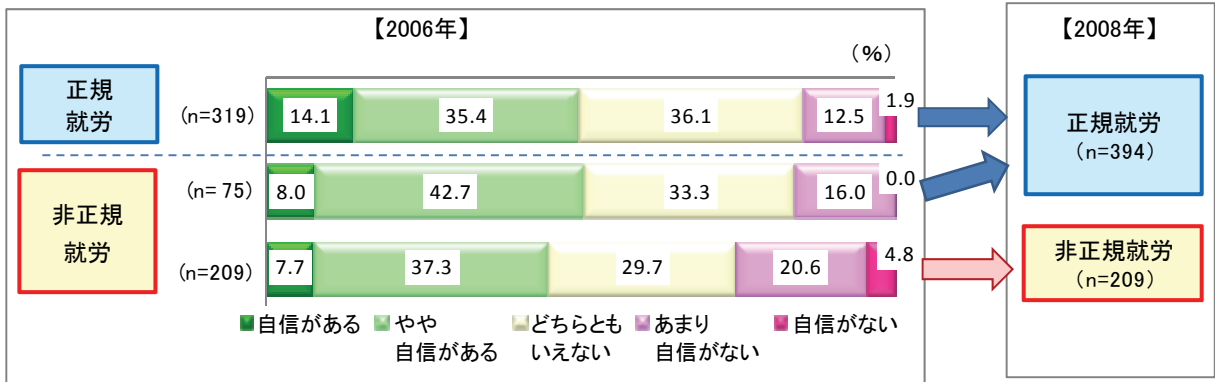
(2) 「仕事の能力」に関する自信

(ア) 仕事の能力の自信のなさが不安定就労とも関係

この2年間で「非正規→正規」の人の半数が、06年の調査時に仕事の能力に「自信あり」（「自信がある」と「やや自信がある」）と回答している。「自信がある」とははっきり答えた割合こそ、「正規→正規」の人には及ばないものの、「自信あり」の合計ではほぼ同じ。

一方、「非正規→非正規」の4人に1人が、06年調査時に「自信なし」（「あまり自信がない」と「自信がない」）と回答している。自分の能力に対する自信のなさが、安定した働き方に就けない一因になっている人も少なくないと推測される。

図表3-3 「仕事の能力」に対する自信 — 06年当時の回答結果（就労形態別）と、2年後の就労形態

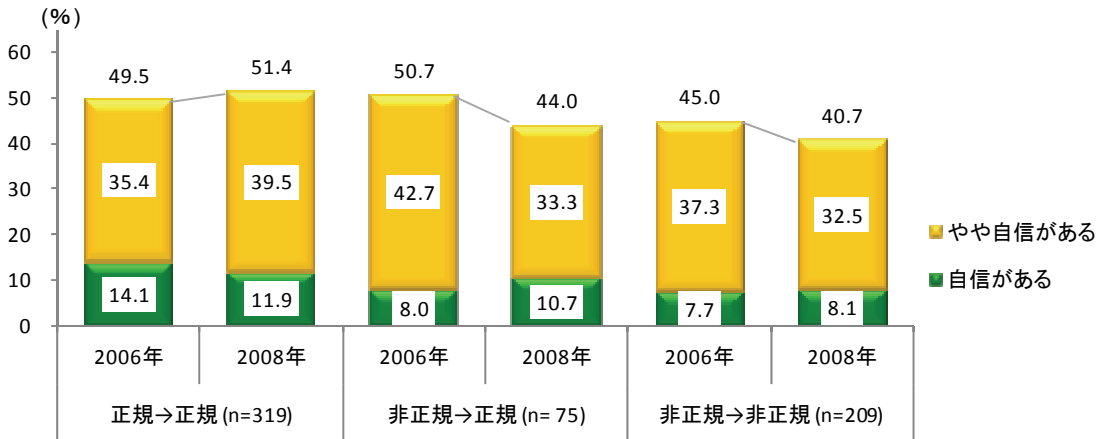


(イ) なかには正社員になって自信喪失の人も

仕事の能力に「自信あり」と回答した割合を06年と08年で比較すると、「正規→正規」の人は微増しているが、他のグループでは低下している。

06年に非正規就労だった人は、08年に正規就労になった人も非正規にとどまっている人も、仕事の能力に対する自信度が高まった人よりもダウンした人のほうが多いという結果である。

図表3-4 「仕事の能力」に対する自信 — 「自信がある」人の割合の2年間の変化（就労形態別）



4. “性格・タイプ” と就労形態の変化

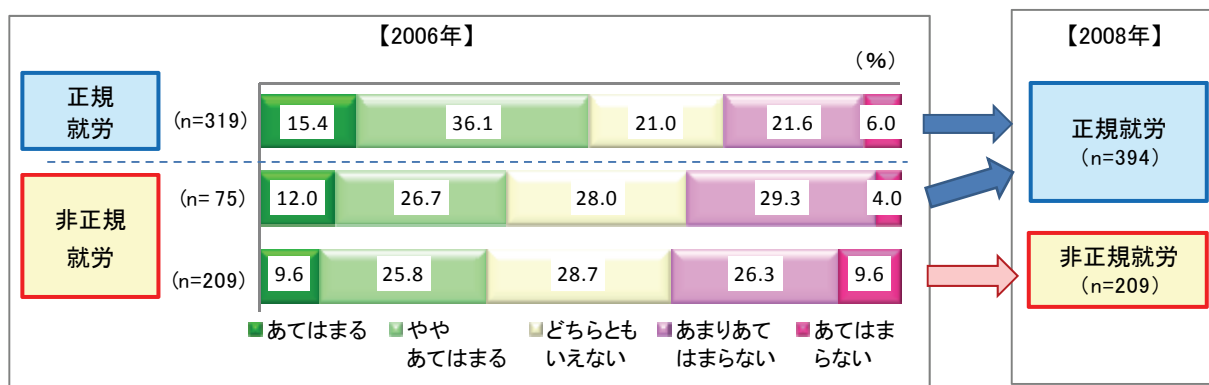
○ 正規就労になるには「社交性」「リーダーシップ」「チームプレイ」も重要

(1) 社交性

図表4-1は社交性について06年時点の就労形態別に自己評価の結果を示している。非正規就労については、前項と同様に2年後に正規就労に転じた層と、非正規就労にとどまった層に分けて分析している。

06年の結果を見ると“社交性あり”（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計）は正規就労で5割を超えるが、非正規就労では3割台にとどまっている。「非正規→正規」と「非正規→非正規」を比較すると、「非正規→正規」層の“社交性あり”の割合がやや高く、否定的な割合がやや低い。正規就労の人は社交性がある人の割合が高いという関係が見られる。

図表4-1 「社交性がある」——06年当時の回答結果（就労形態別）と、2年後の就労形態

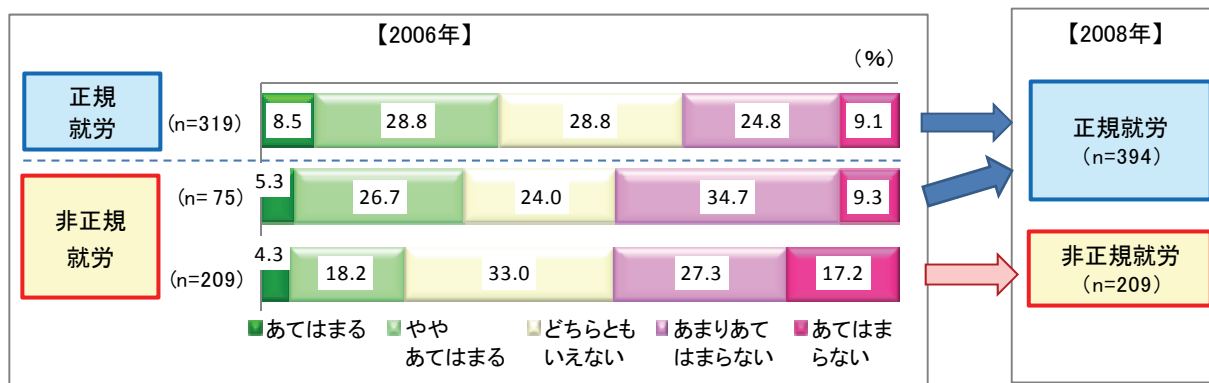


(2) リーダーシップ

06年の“リーダーシップあり”（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計）の割合は、「正規→正規」の層がもっとも高く37.3%。次いで「非正規→正規」の32.0%、「非正規→非正規」は大幅に低下して22.5%となっている。

就労が安定化している層ほど、“リーダーシップあり”の割合が高く、就労とリーダーシップの自己評価には関係があると見られる。

図表4-2 「リーダーシップがある」——06年当時の回答結果（就労形態別）と、2年後の就労形態

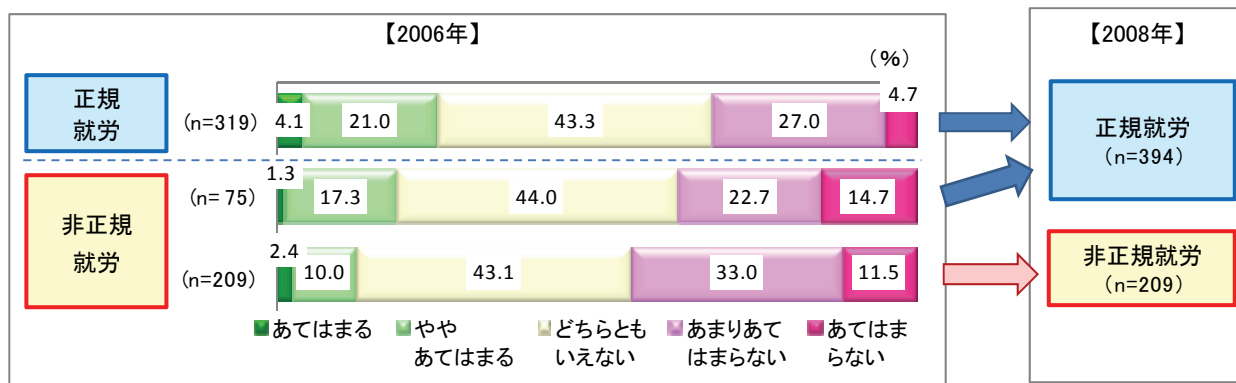


(3) チームプレイ

06年から08年にかけての就労形態の変化別に、「チームプレイ適性」との関係を見た。「正規→正規」の人は、「1人よりチームで仕事をするのが向いている」にあてはまる割合が最も高く、以下、「非正規→正規」、「非正規→非正規」の順となっている。以上から、「チームプレイ適性」は、安定した仕事に就くことと関係があると認められる。

ただ「あてはまる」（「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計）とする割合は「正規→正規」の人でも25.1%に過ぎず、「あてはまらない」（31.7%）（「あてはまらない」と「あまりあてはまらない」の合計）より低い。現在の若者は全般的にチームプレイが苦手なようである。

図表4-3 「1人よりチームで仕事をするのが向いている」——06年当時の回答結果（就労形態別）と、2年後の就労形態



5. 結婚、子どもの誕生・成長への期待

- 正規就労化した層では「結婚」への期待感が上昇
- 「子供の誕生・成長」への期待感も正規就労化した層で大幅に上昇

「今後10年間くらいの楽しみは何か」について対象を06年、08年ともに単身である人に絞って分析した。回答は24の選択肢から3つ以内を選択することとした。ここでは「結婚」「子どもの誕生・成長」について、就労形態の変化別に06年と08年の結果を比較した。

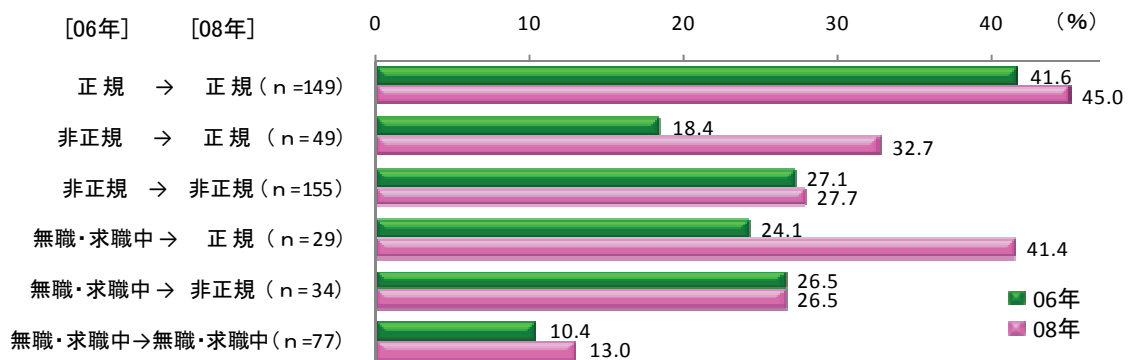
(1) 正規就労化した層では「結婚」への期待感が上昇

「結婚」の選択率を見ると、「非正規→正規」の層は08年が32.7%で06年より14.3ポイント上昇し、「無職・求職中→正規」の層は08年が41.4%で06年より17.3ポイントと大きく上昇した。06年には非正規あるいは無職であったが、その後、正規就労化したことにより暮らし向きも改善し、結婚を期待する人が増えたものと見られる。

なお、「正規→正規」の層の08年の選択率は45.0%で最多であり、「無職・求職中→無職・求職中」はもっとも低く13.0%にとどまった。

結婚に対する意欲は、就労形態と関わっていることを改めてうかがわせる。

図表5-1 「今後10年間くらいの楽しみ」として結婚を挙げた人（対象は06年、08年とも単身の人）

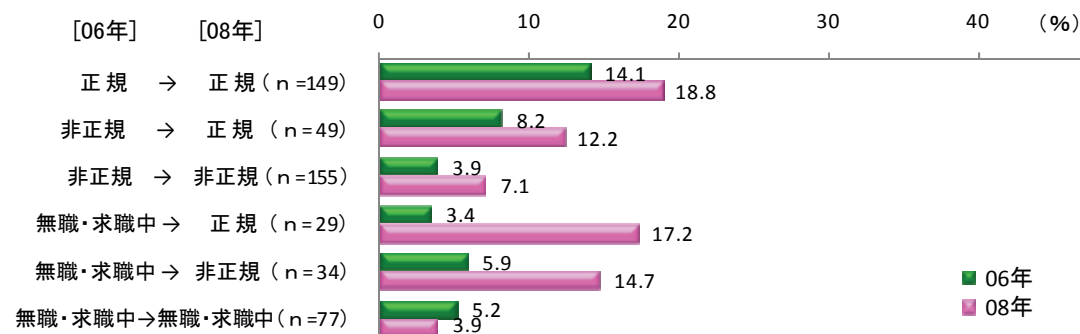


(2) 無職・求職中から就職した層で大幅に上昇した「子どもの誕生・成長」への期待感

分析対象が単身者ということもあり、「子どもの誕生・成長」の選択率は「結婚」ほど高くはなかった。それでも「正規→正規」の選択率がもっとも高く08年には18.8%。

また、無職・求職中から正規・非正規を問わず就労した層は06年から08年にかけて選択率が15%前後へと大幅に上昇。子どもを持つことを期待する気持ちも、就労形態と関係することをうかがわせる。

図表5-2 「今後10年間くらいの楽しみ」として子どもの誕生・成長を挙げた人（対象は06年、08年とも単身の人）



6. 自認フリーターの就労形態の変化

- 30歳を越えると、フリーターから正社員になるのは難しい
- 29歳以下の女性では、「専業主婦」「家事手伝い」になった人が1割

(1) 30歳を越えると、フリーターから正社員になるのは難しい

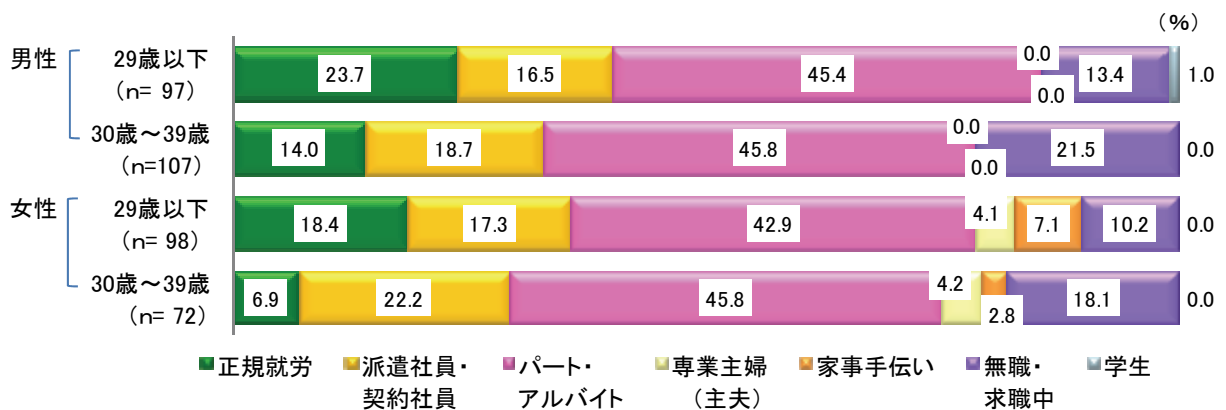
06年調査時にフリーターだった人の08年における就労状況を見た。男性で正規就労者になった人の割合は、29歳以下の人で23.7%、30歳代では14.0%。女性はさらに厳しく、29歳以下では18.4%、30歳代となるとわずか6.9%。年長フリーターの厳しい状況がうかがえる結果。

また「無職・求職中」の人は男女とも29歳以下では約1割であるが、30歳代では約2割と高水準となっている。

(2) 29歳以下の女性では、「専業主婦」「家事手伝い」になった人が1割

29歳以下の女性を見ると、「専業主婦」になった人が4.1%、「家事手伝い」が7.1%ある。「家事手伝い」の具体的な状況は詳らかではないが、合計すると11.2%がフリーターをやめて、家庭に入っている。

図表6 06年にフリーターだった人の08年の就労状況



(注) 本リリースにおけるフリーターの定義については2ページ参照。

7. フリーターのよいところ

○ 男性の年長フリーターは「よいと思うことはない」が3割超

○ 女性の年長フリーターは「働く時間が自由」が大幅に増加

(1) 男性年長フリーターは「よいと思うことはない」が3割超

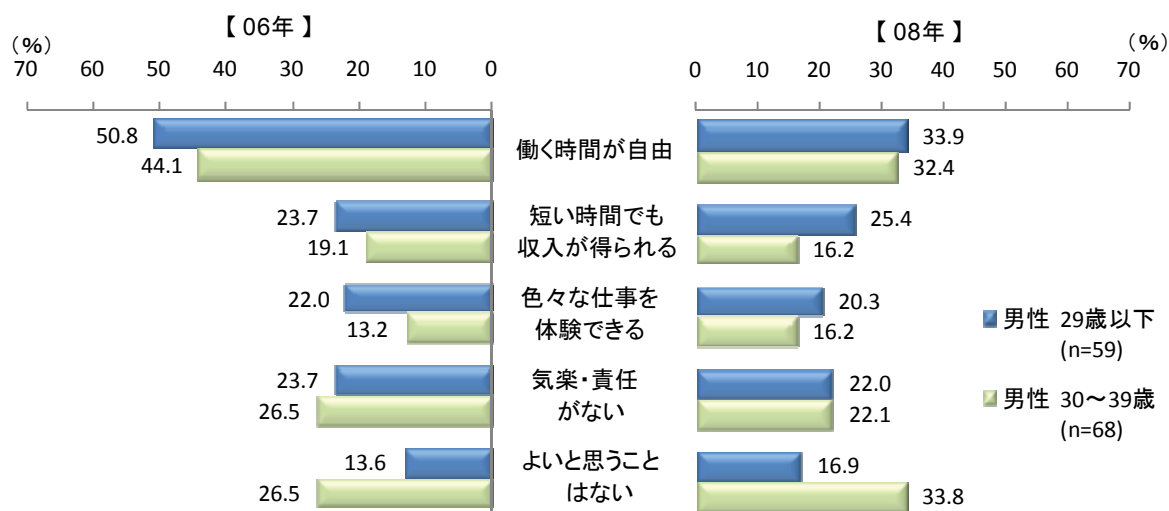
06年調査、08年調査ともにフリーターだった人に、フリーターのメリットを尋ねた。

今回調査では、年齢層にかかわらず、「働く時間が自由」という回答割合が大きく低下。06年調査では、29歳以下の50.8%、30歳代の44.1%が挙げていたが、それぞれ33.9%、32.4%に低下した。自由な時間に働けることは、フリーターの最大メリットではあるが、長く続け、年を重ねていくうちにこのメリットが薄れていく。

また、30歳代で「気楽・責任がない」の割合が08年には06年より低下していることにも注目したい。ベテランの非正規社員に、責任の重い仕事が任される場合があることの表れだろうか。

一方で「よいと思うことはない」と感じる人が08年に増えている。特に30歳代では33.8% (+7.3%)に上昇し、29歳以下の倍の水準となった。

図表7-1 フリーターのよいところ【男性】(回答は2つまで)



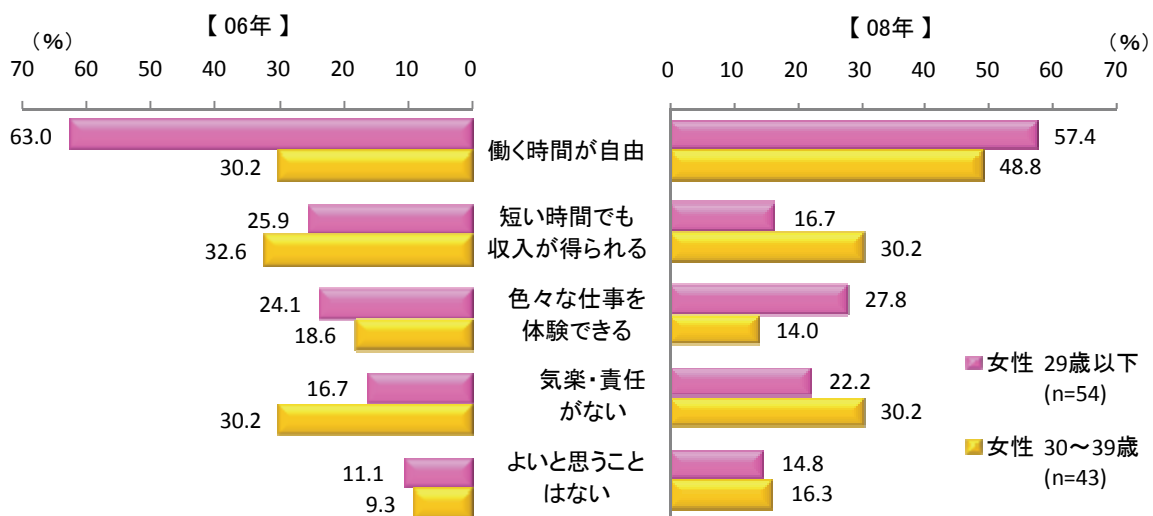
(2) 女性の年長フリーターは「働く時間が自由」が大幅に増加

29歳以下の女性は、「働く時間が自由」と回答した割合が06年の63.0%から08年には57.4%に低下。これに対し、30歳代では、06年調査の30.2%から08年には48.8%と大幅に上昇した。他にメリットを感じるものが少なくなり、時間の自由さだけが実感できるということだろうか。

「気楽・責任がない」の割合が男性は08年に低下したが、女性29歳以下は08年に22.2%で5.5ポイント上昇。30歳代は06年から08年にかけて変化はないが、30.2%と高割合であり男女に意識差が見られる。

一方「よいと思うことはない」の選択率は、30歳代で9.3%から16.3%へ大きく上昇しているが、それでも男性の半分の水準。

図表7-2 フリーターのよいところ【女性】(回答は2つまで)



8. フリーターのよくないところ

○ 男性の年長フリーターは5割超が不安定な雇用を心配

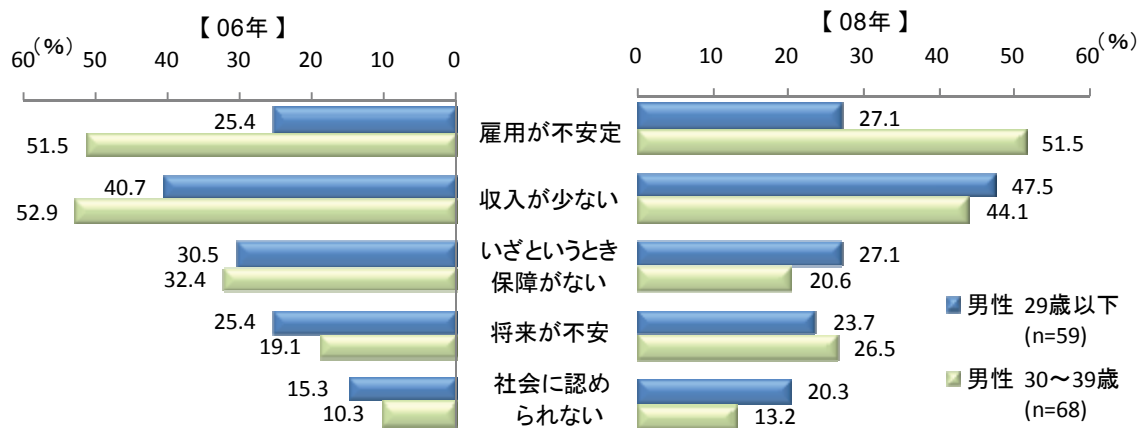
○ 女性の年長フリーターは“雇用”より“収入”

(1) 男性の年長フリーターの5割超が不安定な雇用を心配

06年調査、08年調査ともにフリーターだった人に、フリーターのよくないところを尋ねた。「雇用が不安定」と答えた割合には、経年変化はあまり見られないが、年齢層による差が大きい点が特徴。30歳代は29歳以下の倍近い。

年を重ねていくにつれ、将来にわたって仕事を確保できるかどうか大きな心配になってくるようだ。

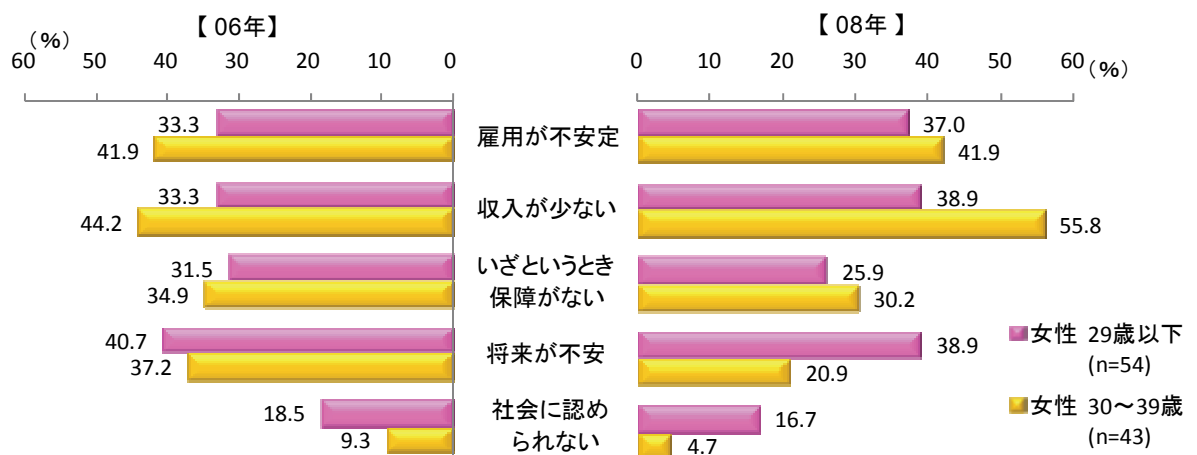
図表8-1 フリーターのよくないところ【男性】(回答は2つまで)



(2) 女性の年長フリーターは“雇用”より“収入”

2年間の変化を見ると29歳以下ではさほど大きな変化は見られないが、30歳代では「収入が少ない」が06年の44.2%から08年には55.8%に上昇し(+11.6ポイント)、男性の年長フリーターとは対照的な結果。

図表8-2 フリーターのよくないところ【女性】(回答は2つまで)



9. 今後どのくらいフリーターを続けるか

○ 男性の年長フリーターは「今すぐやめたい」が3割超

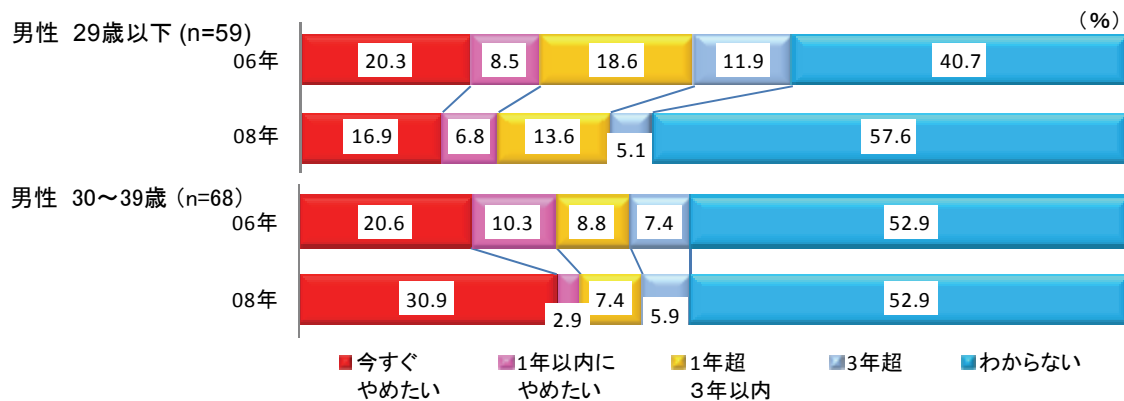
○ 女性の年長フリーターは「わからない」が4分の3

(1) 男性の年長フリーターは「今すぐやめたい」が3割超

06年調査、08年調査ともにフリーターだった人に「今後どのくらいフリーターを続けるか」を尋ねた。29歳以下層では、具体的に年数を挙げた割合は低下し、「わからない」という回答が40.7%から57.6%に増加。

一方、30歳代で、06年調査では20.6%と29歳以下と同水準であった「今すぐやめたい」の割合が、30.9%に上昇した点が目立つ。この2年間、年長フリーターのほうがデメリットを感じるが多かったということだろうか。

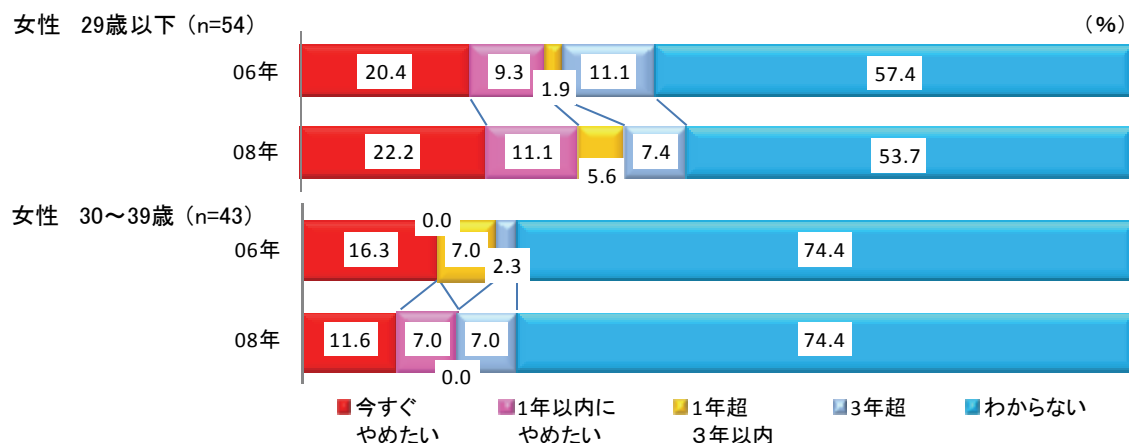
図表9-1 今後どのくらいフリーターを続けるか【男性】(08年の回答結果)



(2) 女性の年長フリーターは「わからない」が4分の3

女性には男性ほど2年間の変化は見られない。30歳以上の人について男性と比較すると、「今すぐやめたい」の割合が低く、「わからない」が大きく上回っていることが目立つ。安定した仕事に就くことに対する切実さには男女差があるようだ。

図表9-2 今後どのくらいフリーターを続けるか【女性】(08年の回答結果)



10. 今後フリーターになる可能性

- 06年、08年とも正規就労であった人でも、2割弱が今後フリーターになるかも
- 「非正規・無職→正規」の男性の4割強が、今後またフリーターになるかも

(1) 06年、08年とも正規就労であった人でも、2割弱が今後フリーターになるかも

現在正規就労者の人に「今後フリーターになる可能性はありますか」という質問を行った。06年、08年とも正規就労者であった人でも、男女とも2割弱がフリーターになる可能性が「ある」（「ある」と「少しはある」の合計）と回答。一方「ない」（「ない」と「あまりない」の合計）と回答した人は6割前後。男女差はほとんど見られない。

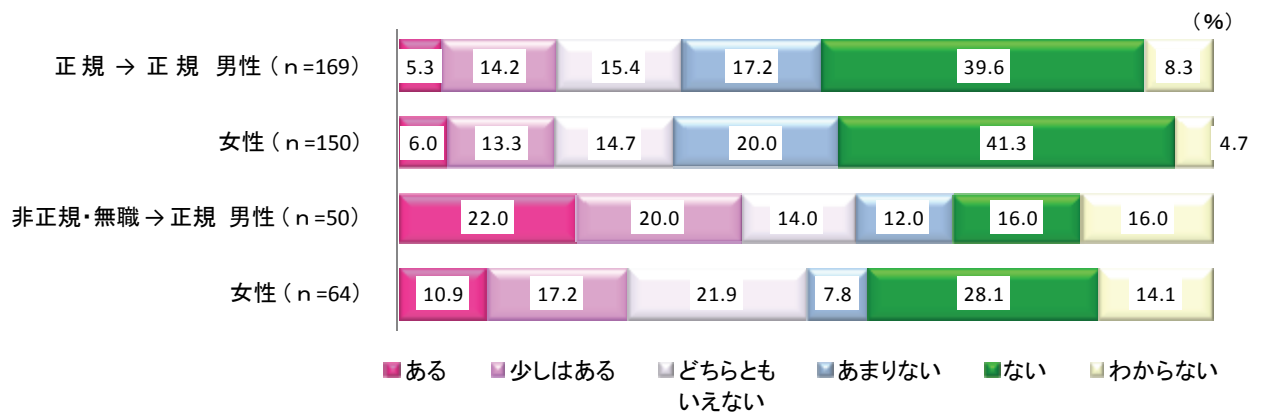
(2) 「非正規・無職→正規」の男性の4割強が、「今後またフリーターになるかもしれない」

これに対し、「非正規・無職→正規」の男性では42.0%が「ある」と回答。はっきり「ある」と回答した人も22.0%に達している。「ない」と答えた人は28.0%でむしろ少数派。

この層は、転職の項（7ページ参照）でも触れたが、「好きな仕事をしたい」という気持ちが強い。正規の仕事に就いたもののその仕事が自分に合わないと感じた場合、好きな仕事をするためには、フリーターに戻っても仕方がないと考える人も少なくない。

女性の場合は男性ほど顕著な傾向は見られないものの、新たに正規就労者になった人は「ある」の割合が28.1%で、もともと正規就労者だった人（19.3%）より8.8ポイント高い。

図表 10 今後フリーターになる可能性（08年の回答結果）



【資料編】「自信度」「性格・タイプ」の回答結果詳細

1. 自信度

(1) 健康・体力

(%)

06年	就労形態	n	06年				08年					
			自信がある	やや自信がある	どちらともいえない	あまり自信がない	自信がない	自信がある	やや自信がある	どちらともいえない	あまり自信がない	自信がない
正規就労	正規就労	319	20.7	34.8	21.3	18.8	4.4	12.2	35.7	26.0	20.1	6.0
			18.7	36.0	26.7	8.0	10.7	12.0	32.0	22.7	26.7	6.7
非正規就労	非正規就労	209	12.4	34.4	24.4	18.2	10.5	12.0	24.9	31.1	23.0	9.1
			20.5	17.9	33.3	12.8	15.4	10.3	23.1	30.8	28.2	7.7
無職・求職中	非正規就労	41	17.1	17.1	24.4	14.6	26.8	7.3	19.5	24.4	26.8	22.0
			1.2	17.4	19.8	26.7	34.9	0.0	12.8	19.8	26.7	40.7

(2) 仕事の能力

(%)

06年	就労形態	n	06年				08年					
			自信がある	やや自信がある	どちらともいえない	あまり自信がない	自信がない	自信がある	やや自信がある	どちらともいえない	あまり自信がない	自信がない
正規就労	正規就労	319	14.1	35.4	36.1	12.5	1.9	11.9	39.5	35.7	11.3	1.6
			8.0	42.7	33.3	16.0	0.0	10.7	33.3	38.7	14.7	2.7
非正規就労	非正規就労	209	7.7	37.3	29.7	20.6	4.8	8.1	32.5	41.1	12.4	5.7
			7.7	33.3	46.2	5.1	7.7	5.1	28.2	35.9	20.5	10.3
無職・求職中	非正規就労	41	2.4	26.8	39.0	19.5	12.2	4.9	19.5	31.7	39.0	4.9
			1.2	11.6	34.9	22.1	30.2	0.0	4.7	33.7	30.2	31.4

2. 性格・タイプ

(1) 社交性がある

(%)

就労形態	06年				08年				
	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
06年	n								
正規就労	15.4	36.1	21.0	21.6	12.2	38.9	18.8	22.6	7.5
非正規就労	12.0	26.7	28.0	29.3	6.7	26.7	32.0	18.7	16.0
	209	9.6	25.8	26.3	9.1	23.9	26.3	28.7	12.0
無職・求職中	7.7	25.6	25.6	28.2	2.6	15.4	25.6	38.5	17.9
	41	4.9	29.3	31.7	9.8	12.2	29.3	29.3	19.5
	86	1.2	5.8	43.0	0.0	4.7	16.3	31.4	47.7

(2) リーダーシップがある

(%)

就労形態	06年				08年				
	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
06年	n								
正規就労	8.5	28.8	28.8	24.8	8.8	24.1	36.1	22.9	8.2
非正規就労	5.3	26.7	24.0	34.7	2.7	25.3	28.0	29.3	14.7
	209	4.3	18.2	27.3	3.3	16.3	30.1	32.5	17.7
無職・求職中	5.1	12.8	41.0	30.8	0.0	10.3	33.3	35.9	20.5
	41	2.4	17.1	39.0	2.4	9.8	24.4	41.5	22.0
	86	0.0	2.3	31.4	0.0	1.2	23.3	26.7	48.8

(3) 1人よりチームで仕事をするのが向いている

(%)

就労形態	06年				08年				
	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	あてはまらない
06年	n								
正規就労	4.1	21.0	43.3	27.0	5.3	19.4	42.9	26.0	6.3
非正規就労	1.3	17.3	44.0	22.7	1.3	10.7	48.0	28.0	12.0
	209	2.4	10.0	33.0	2.4	13.4	38.8	33.5	12.0
無職・求職中	2.6	7.7	46.2	25.6	2.6	15.4	33.3	30.8	17.9
	41	2.4	14.6	24.4	2.4	7.3	41.5	26.8	22.0
	86	1.2	4.7	25.6	0.0	7.0	34.9	33.7	24.4